



尤之双紙

上冊

特 別  
A13  
2261  
1



2261



慶  
 よろこびか<sup>長</sup>りや<sup>中</sup>れ<sup>此</sup>は<sup>病</sup>をよ<sup>ふ</sup>れ<sup>る</sup>ま<sup>は</sup>り<sup>の</sup>  
 まりて<sup>の</sup>は<sup>只</sup>妙<sup>の</sup>納<sup>の</sup>言<sup>を</sup>。ま<sup>り</sup>て<sup>は</sup>し<sup>ら</sup>し<sup>ぬ</sup>ま<sup>の</sup>  
 して<sup>く</sup>さ<sup>た</sup>る<sup>お</sup>り<sup>り</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ら</sup>る<sup>所</sup>木<sup>枕</sup>と<sup>い</sup>へ<sup>れ</sup>  
 あり。二<sup>あ</sup>枕<sup>を</sup>を<sup>あ</sup>り<sup>の</sup>ま<sup>の</sup>や<sup>ま</sup>こ<sup>う</sup>さ<sup>む</sup>乃<sup>た</sup>  
 たる<sup>の</sup>死<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>。ま<sup>の</sup>母<sup>れ</sup>人<sup>乃</sup>た<sup>め</sup>と<sup>あ</sup>る<sup>た</sup>  
 屋<sup>ま</sup>の<sup>中</sup>に<sup>死</sup>す<sup>る</sup>言<sup>葉</sup>も<sup>か</sup>が<sup>に</sup>志<sup>れ</sup>た<sup>く</sup>こ<sup>も</sup>そ  
 う<sup>後</sup>妙<sup>に</sup>志<sup>れ</sup>ま<sup>り</sup>こ<sup>う</sup>に<sup>ま</sup>り<sup>し</sup>ぬ<sup>も</sup>し<sup>ぬ</sup>ぬ<sup>る</sup>こ<sup>も</sup>  
 先<sup>死</sup>す<sup>る</sup>か<sup>ら</sup>い<sup>た</sup>ま<sup>り</sup>し<sup>ぬ</sup>も<sup>し</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>り<sup>あ</sup>ら<sup>ぬ</sup>  
 此<sup>死</sup>す<sup>る</sup>中<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>お</sup>あ<sup>り</sup>。ま<sup>り</sup>て<sup>は</sup>し<sup>ら</sup>し<sup>ぬ</sup>ま<sup>の</sup>  
 志<sup>す</sup>る<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>り<sup>し</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>り<sup>あ</sup>ら<sup>ぬ</sup>



糸魚もかき落し...  
 いさりのゆふある所とて梳とらふ...  
 をあし...

糸魚の双紙目録 上

一  
 三  
 五  
 七

おろし物  
 たりき物  
 ひろふ物  
 きまゝいある物

二  
 四  
 六  
 八

三つき物  
 ひくき物  
 せせき物  
 むきき物

九  
 十一  
 十三  
 十五  
 十七  
 十九  
 廿一  
 廿三  
 廿五  
 廿七

うねりき物  
 うねりき物  
 みづれき物  
 もやまき物  
 まづめき物  
 おしふき物  
 あふき物  
 大切物  
 たのき物  
 おしき物

十  
 十二  
 十四  
 十六  
 十八  
 二十  
 廿二  
 廿四  
 廿六  
 廿八

うねりき物  
 うねりき物  
 まづめき物  
 せせき物  
 うらき物  
 うらき物  
 あふき物  
 稀物  
 にくき物  
 あしき物

廿九 卅一 卅三 卅五 卅七 卅九

あはれまの  
あはれまの  
あはれまの  
あはれまの  
あはれまの  
あはれまの

三十 卅二 卅四 卅六 卅八 四十

あはれまの  
あはれまの  
あはれまの  
あはれまの  
あはれまの  
あはれまの

朝田家蔵書

岸本家蔵書

一 ちのきおの志れ

一それ漢朝乃いりへ長きりたため一はそ  
堯舜之流代七百年。周之流代八百。前漢  
後漢四百年。我朝之流代之びりて八  
十三万六千八百余歳と名。今人王之代也成て  
をみのまを河乃流か。百玉万歳の流代り  
をくに安ての長き地ま。乃天竺乃石乃橋。自か  
宇治橋。勢田乃橋。回廊か長き。いつく橋。三十三向  
鐘舎之建。長寺廊下。通天橋。天橋立。こがゆき  
海乃たぐ繩。さるる。まはるる。おろ乃河



一、<sup>福</sup>まきのまきつて。神カミやましカミかカミしカミかりカミるカミあカミきカミ。  
戸田トダ乃ナリ木キたタりリ。木キ柄カのノもモ。まマきキくクぬヌいイ。あアきキ。  
上ウ手テにニ後コト義ギ。いイとト後コトのノ状シヤウ。おオ籠カゴ乃ナリ四シそソ。縁ヰこコのノつツり  
まマ。いイまマにニ。うウらラのノおオ。ほホろロのノうウつツてテ。ちチやヤのノつツり  
。夜ヨ乃ナリあア。あアのノ日ヒ。ふフいイうウれレのノらラ。電デン光カウ。おオ落ラク。あア。  
人ヒト回マヒ五イ十ジウ年ネン。いイゆユめメちチやヤ。

三

たタくクさサのノまマきキ。

一、<sup>梵</sup>あアしシてテ。たタくクさサ。下カ界カイにニおオわワてテ。あアのノたタけ  
あアこコまマのノたタきキにニぬヌりリまマりリ。さサのノうウのノまマきキをヲ  
もモたタおオるル。いイのノ位イ。まマろロうウにニおオわワてテ。秦シ始シ皇クワン乃ナリ

かカんン屋ヤ。まマきキ。まマしシたタきキうウまマじジつツてテ。いイ。  
層ソウ其キ臺ダイ。日ヒかカにニてテ。いイ。まマきキをヲやヤくクたタきキをヲなナれレ。  
まマ。延エン結ケツ。御ミ製セイのノ。

たタくクさサのノまマきキのノつツりリてテ。みミまマりリまマりリ立タツ。  
民タミ乃ナリうウ海カイをヲ入イれレにニ。まマきキをヲいイよヨらラりリ。

東トウ寺ジ塔トウ乃ナリ九ク里リ。いイまマのノ山サン也ヤ。あアるル。こコのノ山サン松ソウ乃ナリ精セイ。  
乃ナリ天テン狗コのノまマきキ。まマきキをヲいイよヨらラりリ。まマきキをヲいイよヨらラりリ。虚キョ堂ドウ乃ナリ也ヤ。  
日ヒまマ。大ダイ灯テウやヤ。貫クワン之シがガ。丹ニ書ショ。定テイ家カ色シキ紙シ。好コウ阿ア免メン幸キョウ。  
ふフらラりリ。たタんンごコをヲ今イマをヲいイよヨらラりリ。まマきキをヲいイよヨらラりリ。ねネのノつツりリ。  
乃ナリ土ツチのノぬヌまマりリ。かカ林リンうウつツまマりリ。丸マルづヅ。あアとトいイひヒ。まマりリ。



まのそ 取まのま  
つり衣神。大津衣。まはるぐもに。芭蕉  
之重顔。まの支脂之類。下平。陽席。庚耕。借  
大唐。四百余列。とら。白。中。は。真。列。ハ。卒。罪。人  
。秋。多。は。り。り。れ。時。た。成。公。方。四。千。乃。ま。度。な。れ。人  
。毎。の。こ。も。ま。に。い。よ。お。あ。ら。ら。つ。き。し。孫。の。ま。を。あ。の  
く。り。き。い。い。き。こ。よ

六

口をまき物しきましく

もごりれきり 付うめが

きやくちられ穴 あふ付穴穴竹のうら

外乃ららの蛙

くまのあが

竹乃肩きまどのぞく

蚊をまたくいふ

たぬぬ呂

手鳴ひら

たびのひが

解乃乃るり

庭乃庭り水 付まをり

ちりののんえん

まりつてこがみ 付くま

志りさ人の心中

ひららむ

そのほそみら

一巻くまのまを

とふ乃まらうら

たぐまのるり

くまののし 物 一文字

祿まみ 付ろが品のり

くまののるり

のまあひのあひ

山田乃あひ

まはれ細布 糸のゆたき  
あはれあはれ  
がせきま







藤下 藤下 藤下 藤下

藤下 藤下 藤下 藤下

五十にあらまゝの女ありて... 藤下 藤下 藤下 藤下

いづれも人。藤下 藤下

あつたやうのやうであつた... 藤下 藤下

むづかしい。藤下 藤下 藤下 藤下

十

うれしい。藤下 藤下 藤下 藤下

一 おやれあまひつしま

女乃ささいありてまふこふまらけ  
と強まひりよまふあまひきらけ  
人乃まそ子強ほむるハ娘  
いくだひおむのいよむまれさるけ  
うの孫屋ましくむまねるハ娘  
我ひとりにおぞうむそ  
ましくあつてこれ知れハうけ  
おろよ一あつてまふハ娘  
う孫をひろひたさハうけ

公 華

たのそ けあつてまふハうけ  
法 膳 貞子 ころころハうけ  
法 藝 志 海 たるまらけ  
宿 城 ち せめてよりあたるハ娘  
宿 新 乃 ころまらけハうけ  
い 木 乃 花 ち せめてまらけハ娘  
よ ち げ 海 ち ち ありたるハうけ  
学 師 子 文字 子 家 甘 師 師 子 大 丸 ち 回 ち 娘

上

上



上之乃為りとのきつるや其の中れ  
をくらひさきつらたぬ一明し

何よりつふふたき。きりきりてふ  
貪家親知少。賤方古人外

又古よき事あり

こゝろれかみの事をいふ也し

擡よりあつちあらぬかたしきもた

俄乃客乃馬子香のあふいふ。えんきりし

あつちり家し。ひりもつれふし。藤父子

九年れ。一更をきつてむらりひらひら

又法勝寺の修行。後寛僧都寇寒鳴子

又砂まき。あし。玉昭君の胡国へうつ

まき。北つ。又昭陽人。十六あつらうし

まき。揚貴妃子孫。まね六十に成りて。玄宗

みもえあつて。昭陽宮はこめつら。あつ

かみみりつれ。びま北

つらつらうし。きつらきれ是あつ

つらつら。深りつらま。地分

光源氏むらりむらり。あつら。あつら。あつら

のれつら。あつら。あつら。あつら。あつら

ろの海軍一船一又むろくた志肥は監  
おろりわく。まのひくおろりわく。海軍一船一又むろくた志肥は監  
まのひくおろりわく。まのひくおろりわく。海軍一船一又むろくた志肥は監  
海賊の船もあつた。いさき舟のちやうど  
くおあつた。あつた。海軍一船一又むろくた志肥は監  
みたうろく。あつた。海軍一船一又むろくた志肥は監  
女院宮つくり。あつた。海軍一船一又むろくた志肥は監  
さつた。あつた。海軍一船一又むろくた志肥は監  
可松浦の船もあつた。海軍一船一又むろくた志肥は監  
うきそつた。あつた。海軍一船一又むろくた志肥は監

一船一又むろくた志肥は監

十三

みされたるおのまれく

一呉越の鬼さつた。あつた。海軍一船一又むろくた志肥は監  
四十年。我朝もくも。海軍一船一又むろくた志肥は監  
平家壽永のまれ

まのひくおろりわく。まのひくおろりわく。海軍一船一又むろくた志肥は監

まのひくおろりわく。まのひくおろりわく。海軍一船一又むろくた志肥は監

えんあつた。あつた。海軍一船一又むろくた志肥は監  
やつた。あつた。海軍一船一又むろくた志肥は監  
握の乱。あつた。海軍一船一又むろくた志肥は監

いろいろいきしやしやとれむらめかられりきし  
 まはよもまうく、柳乃あゆの乱、柳乃あゆの乱  
 義もあゆの乱。あよもゆの乱、あゆの乱  
 乃らうれみられくのきみれされ限きり  
**十四** ちのうあれむ乃きり  
 一乃白乃羽。舟乃會。まきりた席。定家乃中  
 乱柳乃む同。こらふれりもこらきり  
 人のきりうくし。あゆの灯  
 たつひらあゆもあゆりわく  
 らまかりさひたのきり

さびらあゆにあゆを定てあゆもあゆ。九年西岸  
 源成。弘法乃師入定きり二舟のこらきり  
 てきしやあゆれむらめ。あゆのきりあゆと  
 もよとあゆ。下柳乃水のきりあゆ定て  
 公もあゆを義經乃あゆ人きりあゆ

江南野水碧於天  
 中有白鷗用似我

**十五**

ちやき物の品  
 一たにに子せういとあゆのきり  
 柳乃あゆのきりあゆのきり。あゆのきりあゆのきり  
 柳乃あゆのきりあゆのきり。あゆのきりあゆのきり

章賦天  
 捷快鬼





一かどりれおしど。きでまの子。い解。見え  
教を固の下知。大る丹法合。説起のたつち  
海底子きづめまし。こがむ。又新波垢にるむ。む

新波にる藤よら。とてむ。う。そ  
つらねく。たまん。とこい。む。や

西海西海よ才をきづめ。尔宰相乃扇。又。う  
とろふて。きづ。じ。や。ら。り。う。と。ら。と。ら。り。ら。き  
て。二。人。つ。ま。き。て。き。づ。む。む。ら。り。中。あ。り。き。ん。と。と  
め。一。八。歳。あ。く。あ。り。ま。ん。安。徳。天。皇。と。二。位  
乃。后。の。ま。ま。と。り。て。船。を。つ。の。の。ぞ。え。ね。へ。て。想。

あ。の。た。り。と。して。じ。や。う。れ。柳。の。い。け。あ。き。に。れ。ま。せ  
合。へ。れ。十。念。の。帝。に。ま。ふ。あ。り。ま。う  
是。を。う。た。う。の。に。割。れ。ま。く

い。海。を。き。ぬ。み。も。を。り。の。あ。し。は  
ふ。の。の。底。あ。も。お。り。り。と。ら

と。ら。み。ね。は。て。千。等。乃。そ。う。に。き。づ。こ。ゆ。み。と。し。れ  
う。あ。り。た。く。又。津。の。固。か。田。の。ま。ま。に。女。の。り。を  
ま。あ。の。一。個。よ。ら。だ。か。い。う。の。り。り。又。和。泉。の  
個。よ。ら。め。の。ま。す。う。や。し。男。の。り。き。り。こ。の。女。所  
二。人。し。て。ま。う。ま。の。に。せ。し。と。あ。り。ま。あ。女。心。に。あ。せ

無言証



水鳥。成る大鳥。一羽。うね。きみ。つ。き。な  
う。ま。あ。う。川。あ。れ。乃。死。人

まの。物。の。や。た。が。う。う。れ。ひ。と。ま。に  
身。を。捨。て。こ。そ。う。ふ。能。の。可。建

十九

君子

おし。又。おし。き。ふ。し。か

君子不重。則。非。威。ト。き

仁の道

仁。い。ま。り。と。も。金。石。ま。れ。た。し

め。ら。ま。り。た。ま。成。ち。う。そ。の。ら。れ。る。し

注。せ。か。け。も。才。二。第。三

尤。お。の。こ。の。父。母。れ。し。た。め。れ。し。く。く。く。渡。り。て

古。布。子。年。負。債。商。人。の。道。行。に。自。給

上。の。の。り。と。ま。り。茶。う。寸。子。筋。乃。せ。う

あ。つ。り。の。の。あ。ぶ。せ。う。あ。た。ら。ぬ。笠。乃。雪

笠。童。吳。天。雲

二十

か。ろ。き。ま。の。し。か。志。那

一。麻。の。り。灯。心。つ。も。も。こ。る。か。き。ぬ。無。う。だ。り

う。ま。い。蝶。ら。し。が。れ。ど。よ。所。を。れ。ぬ。り。強。せ。し。り

さ。ら。び。弱。女。れ。下。知。ま。め。ち。物。の。あ。ら。ぬ。上。良。海

下。戸。け。う。ら。ら。ら。ら。き。か。あ。ら。葉。同。ら。ま。る。石

う船の河。ひさうたし

瓢箪 屢空草 後顔 淵之卷

廿一

うふふおのふ

一むいそぬ人。か行有人。頑学若僧。千尋海

夏山。伊田。これかおの父。雲道

三起 跡乃 雲の 志 一 に あり きて

うふふ 琴り せ せ せ せ せ せ せ せ

うらろぬらう。古の力。平お倍。待候方

少法。觀世大生。女面。うふふ琴り。うら

揚貴妃 ぬ席 帝思 李夫人 去 漢皇情

ひさく 新し 戸の 町 さい。及 祝 音を たく せ あり

又在 画の 業 平 さい さい さい さい さい さい さい さい

杖乃 杖の 千 ち 所 一 夜 ち あり あり あり あり

八千 あり 一 杯 ち や あり あり あり あり あり あり

西

杖乃 杖の 千 ち 所 一 夜 ち あり あり あり あり

又 光 源 氏 さい さい さい さい さい さい さい さい

わさり あり あり あり あり あり あり あり あり

花の 夕 あり あり あり あり あり あり あり あり

御嶽 精進

みづからしれきくひて南をたうらみ  
たうしんく佛と唱へる山が此處

うそちくうをうぬみら所き人かく

えし母りあふ英りたてともか

水 清きまのしるかしれ

一掃乃智恵。持場のき。此等之れ。女れうろ

いそくせ心えうやいひや背身

母のつりさゆと人をもしつ物も

ふかあえんかろり人にとりたはまき人

水子学。うらまの力。水はうせいせいでし

らやつ。うらむら。一おつ着れ雷のぬ。うらあし

多枯乃野山。ひてり此川。ぬ。出乃井

うきう山。ひきえうら山乃井。此

あさく。人をむりよまのうら

大 切成物のしるかしれ

一ふさけあふま君。命をうらじま。修し

志よまう。ていぬ。ただめ。師才。親子兄弟

文婦れ中。女子のま。乃中に一人乃男子。知

あふ。善代の家人。外換。うら。勇志。公物

乃道也。とうちられ。ま。事にあつら。ひま

上

九二



















お宗永のつるさ兒。朱原のめの只子。茶室の  
くのまごれ。ちやまのづまこ。まごまご  
愈にちる。朱見。朱行。まやつら。ほむら。朱  
つ。朱づのめ。まはまふら。まごまご。相まご  
乃まご。まごやまご

これいもまごらむ城の時。まごらむらむら

**世三** まごらむらむら

一喜いまごらむ梅。小く。まごまご。まごらむら  
まご。知花。まごらむらむら。こひめ瓜  
まご。月影。まごまご。まごらむら。まごらむら

冬ハ初音。まごらむら。椎の落葉。まごらむら

雪。まごらむら。まごらむら。まごらむら。まごらむら  
まごらむら。まごらむら。まごらむら。まごらむら

深田の踏躰。まごらむら。谷井菟。まごらむら。後乃小神。まごらむら。祈りまご  
まごらむら。まごらむら。まごらむら。まごらむら。まごらむら。まごらむら。まごらむら。まごらむら

雪やし初出。まごらむら。まごらむら。まごらむら

**世三** まごらむら

一里<sup>くろ</sup>沢<sup>谷</sup>の市<sup>ノ</sup>兵庫<sup>ノ</sup>とらふ人<sup>ノ</sup>らに極<sup>ニ</sup>まじりての<sup>ニ</sup>神<sup>ノ</sup>の  
 一<sup>ト</sup>てしきまふやまの<sup>ニ</sup>おたう寸<sup>ノ</sup>の<sup>ニ</sup>通<sup>ス</sup>を<sup>シ</sup>たらせ  
 里<sup>ノ</sup>毛<sup>ノ</sup>の<sup>ニ</sup>約<sup>ナ</sup>よ<sup>ク</sup>そと<sup>ノ</sup>も<sup>ク</sup>せ<sup>ら</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>り<sup>て</sup>  
 ひ<sup>ノ</sup>く<sup>ハ</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>  
 ま<sup>の</sup>つ<sup>き</sup>が<sup>ら</sup>か<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 う<sup>ち</sup>し<sup>の</sup>ら<sup>あ</sup>つ<sup>ふ</sup>り<sup>を</sup>ひ<sup>て</sup>こ<sup>も</sup>れ<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>り<sup>て</sup>  
 たり<sup>の</sup>も<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 と<sup>し</sup>ち<sup>や</sup>う<sup>の</sup>ひ<sup>ひ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 ら<sup>ま</sup>あ<sup>れ</sup>し<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 う<sup>ち</sup>し<sup>の</sup>ら<sup>あ</sup>つ<sup>ふ</sup>り<sup>を</sup>ひ<sup>て</sup>こ<sup>も</sup>れ<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>り<sup>て</sup>

行<sup>ノ</sup>を<sup>シ</sup>り<sup>て</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 比<sup>ノ</sup>沙<sup>ノ</sup>門<sup>ノ</sup>堂<sup>ノ</sup>へ<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>ま<sup>り</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 せ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 せ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 せ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 せ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 せ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 せ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 せ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 せ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 せ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 せ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 せ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 せ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 せ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 せ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>も</sup>れ<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>

廿四



そくましき。夜中あけを授く。世竹馬作  
らあひあひ。ちや秋風の音信で小野れむ  
秋。起所子。泣ぬがうけし。あらぬ。位出  
菊れあれあるま。泳乃ともも。

こままらぬく。位。岩乃山れまくぬか

世乃。世れ。杖子。きそ。みま。及。世。衣。き。僧。乃。世  
檀乃。机。より。り。り。世。硯。の。う。紙。あ。け。ま。ま。守  
正。世。海。一。か。れ。た。る。掛。字。れ。い。う。ぐ。ハ。何。く  
ぞ。世。後。れ。そ。う。け。合。り。世。地。の。錦。の。一。文。字

世系乃たぐり。梅床。と。う。然。う。そ。め。ま。の。臺  
一人。り。り。き。お。が。世。の。二。れ。小。神。き。そ。う。守。世。の。う。  
あ。い。世。う。さ。い。を。ま。き。に。う。り。世。れ。う。く。さ。に。茶。を。え  
の。旁。に。茶。を。細。し。も。こ。む。う。く。も。も。あ。紙。う。た。に。世  
回。き。れ。も。何。と。あり。も。も。鰯。と。こ。そ。ハ。ア。さ。れ。り  
う。ね。も。む。ら。う。ま。の。う。ら。あ。る。人。う。う。

世五

中。あ。の。う。お。

一。ち。の。ま。う。り。ま。の。あ。き。花。の。世  
何。れ。年。た。ら。え。う。の。た。り  
ま。る。お。お。う。う。え。の。一。也











きつてちびうた

きつ震たつとどしとどしと響くかりの

ちれあさふとんまかしゃあしん

花ハ祓よ。まのしんまの久敷山がくさ籠の内あせ

久敷。やうの響ふりまれくつりあさぐり。あ

ゆり。あさぐり。山ぐり。こ山ゆりまのあめや。

たぶね響のあさぐり

ち〜鷹けこ久敷云々の志ぬしをれ

〜きろるるまきあやま〜らん

りよゆの荒林弓がしあみれは門はゆり。虎ハ子

まもひて千里とゆり。まらりあはるの響あまゆり

あまゆりと響あまゆり〜まゆり

たらつれいあまゆりのあまゆり

ね〜まらりあはるの響あまゆり

昔男はまゆりあはるの響あまゆり

い〜まらりあはるの響あまゆり

えあまゆりあまゆり

あまゆりのあまゆりあまゆり

あまゆりのあまゆりあまゆり

朱買臣の錦をきそ。故郷にゆき。蔡とまきて  
 山よりくわい。東園云。綺里香子。夏黄云。角里  
 先生。此四老人也。てん帝おしゆる。行軍中如  
 いは海。又海氏。三とせぬれを。明石よりゆりゆ  
 有人ゆきて。ぬり十字のよ。配あきくよのれ  
 甲くくにあさむあさるくささことに  
 くらきおれきくわたりきき  
 空ちこきれをぬれぬれにあらり。わくはゆ  
 されをきうさうて。故郷へゆりきうとぞ





